



「別府鉄道をご存知ですか？」

お盆が近づいてきました。日本人は、ふるさとへの郷愁が強いのか、年末年始、お盆、最近ではゴールデンウィークなどふるさと回帰現象がおこります。電車でゆつくりと日頃のことを忘れて車窓から日本のすばらしい風景を眺めると心が落ち着きますね。

さて、本号は少し前まで走っていた別府鉄道について心の旅をしたいと思えます。現在加古川には、JR西日本（山陽本線・加古川線）、山陽電車の鉄道が走っています。今から約30数年前の昭和59年までは、別府鉄道が走っていました。現在加古川市役所の東側に車両が残され、播磨町の郷土資料館の外にはDC302機関車とハフ5客車が保存されています。

大正4（1915）年創業時の社名は別府軽便鉄道です。創業者の多木久米次郎が経営する化学肥料製造会社の多木製肥所（現在の多木化学）の肥料製品を別府港に積み出すための鉄道として、大正10（1921）年に野口線が開業し、大正12（1923）年に土山線が開業しました。



1980年代に入り国鉄貨物営業の縮小の影響を受け、土山線を経て土山駅で国鉄線へ受け渡す貨物輸送ができなくなり、これが直接的原因となり1984年2月1日に土山線鉄道全線が廃止されました。現在廃線跡は主に遊歩道（であいのみち）が国史跡大中遺跡、県立考古博物館、播磨町立郷土資料館へとつながっています。

右の写真は、野口町円長寺に残されている客車と時刻表です。地域に根ざした鉄道が、今もわれわれの生活の中に息づいています。

当駅発列車時刻表 別府鉄道													
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
上り 野口町方面行			07		24		07		08	40		04	04
下り 別府方面行	00				20					03		08	

線区内運賃表 普通運賃 大人100円 小児50円
定期運賃 通勤 02700円 37700円 614580円
通学 01500円 34230円 618100円

ぶらり加古川第32号

平成28年7月